



開校明治七年
開校150周年

大和田小だより

学校教育目標

かしこく やさしく がんばる子

地域と伝統に支えられ、本年度開校150周年を迎えました。

めざす学校像

子供の自己有用感を実感させ、主体的・協働的な学びを実践する学校
～すべての子を大和田小の光に～

10月号 令和6年9月30日
新座市立大和田小学校
児童数 746名・学級数 27 学級

9・10月の生活目標

落ち着いて
学習にとりくもう

- ・学習のきまりの確認
- ・先生の話をしっかりと聞く
- ・友達にわかりやすく伝える

神無月 子供達に学ぶおもしろさを実感させる授業づくり 校長 近藤 章宏

現在の学習指導要領では、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に必要とされる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが求められています。そのためには引き続き基礎的、基本的な学力の定着を図るとともに、学習の質を一層高める取り組みを進めていくことが重要と考えます。

本校の授業づくり

本校では本年度からの3年間の研究のテーマとして「主体的に考え、学び合う児童の育成」～「学ばって面白い」と思える授業づくりを目指して～として授業改善のための取り組みを進めています。本校の児童は県の学力調査の結果から見まして、全体的に基本的な学力は十分に身につけていることが分かります。そこでより一層自ら主体的に学び、社会に出てから自らの人生を切り拓いていく力をつけさせたいと考え、目指す児童像を「自分から課題を見つけ、学びを深めていくことができる児童」としました。「自ら課題を見つける」とは、なぜ、どうして等の疑問から「やってみよう」「もっと知りたい」といった学習への意欲をもつことです。そしてそれらを原動力として自分たちで課題を見つけ、自分のめあてもつことができるような授業づくりを進めています。例えば授業の中の導入の際に、クラス全員の前の時間の学習の成果を電子黒板を使用して映し



出し、自分とは違った取り組みや考え方があることに気づかせ、自分なりの新しいめあてに向けて学習を進めていけるような工夫をしています。もう一つの児童像「考えを深めていくことができる児童」とは、交流や対話、協働的な学びにより新しい考えに気づいたり、自分の考えをよりよくしようしたりすることです。学び合いとは他者との対話だけでなく、自分の今までの取り組みや、過去の自分との自己内対話も

考えられます。具体的には学年を問わず、ペアや3人組4人グループなどで意図的な交流学习をどの教科でもできるだけ取り入れようとしています。またロイロノートという学習の見取りを全員で共有することができ、学習コンテンツを活用して、クラス全員での対話を行うことができます。



このような授業改善の取り組みの中で、サブテーマにあるように「学ばって面白い」と子供たちに感じさせることを目指して取り組んでまいります。

開校150年の沿革(4)

今から60年前、昭和39年(1964年)頃から児童数が急激に増加しました。都心にかかるベッドタウンとして新座市は当時人口増加率で日本一だったと聞いています。児童数は最も多かった昭和43年(1968年)には1596名でした。現在の児童数の2倍です。学区も新座市の北側全部なのでバスで通学したりする児童もいました。三階建ての鉄筋校舎ではすぐに教室が足りなくなり、多いときは校庭にプレハブの仮校舎を2棟建てて、対応していました。その後東北小、野火止小、東野小、新開小が開校して、現在の学区域になり、児童数は800名程度に落ち着きました。昭和46年(1971年)にはプールが完成しました。当時のプールは今の西校舎の横のあたりにあり、一度玄関を出てからプールに行かなければなりませんでした。また当時は自動車事故が急増し、交通戦争と言われた状況でした。そこで各地で安全教育が盛んに行われており、当時は体育館から旧川越街道の間は本校の敷地であ



ったので、そこに交通公園といって、簡易的な自動車コースのような施設が設置され、交通標識を確認したり、道路の渡り方、歩行の際の注意事項などの学習に役立てていました。

